

経営比較分析表（令和3年度決算）

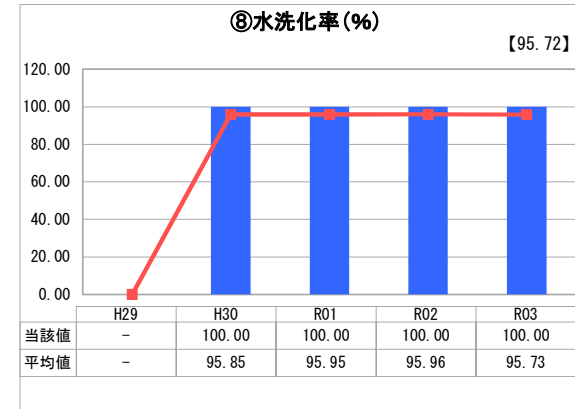
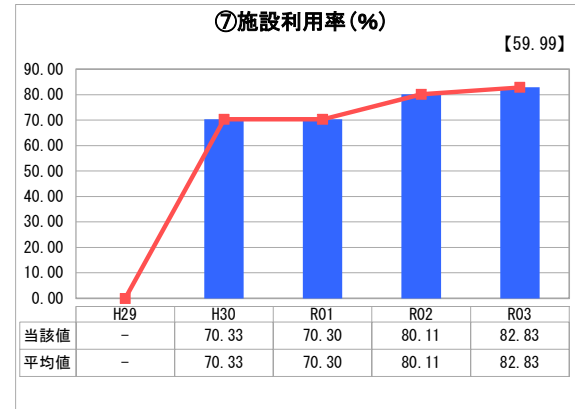
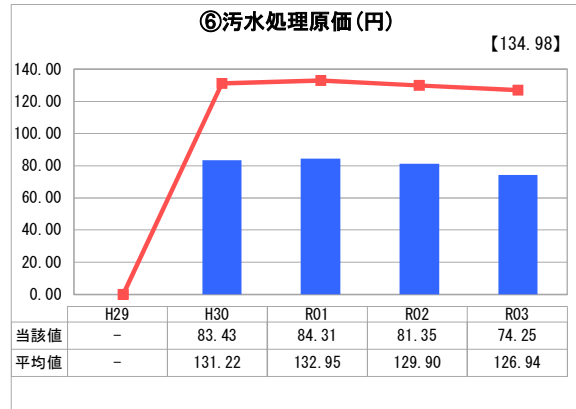
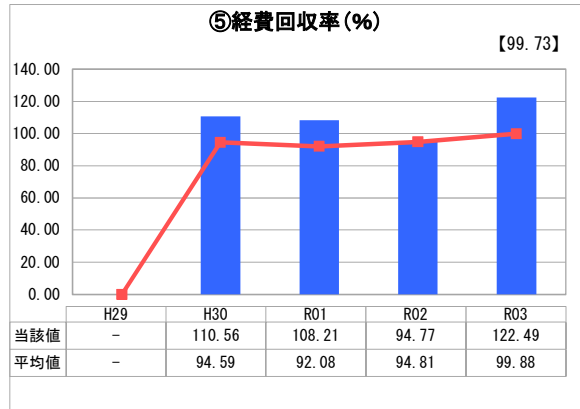
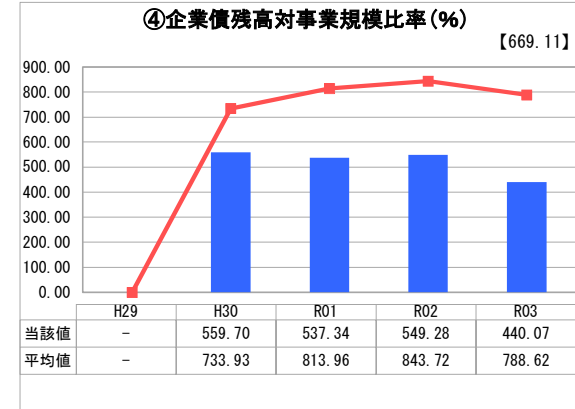
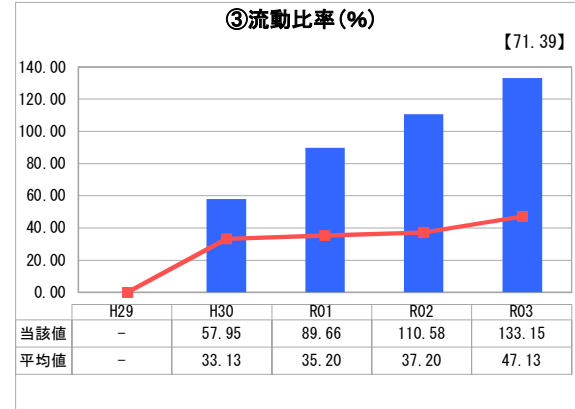
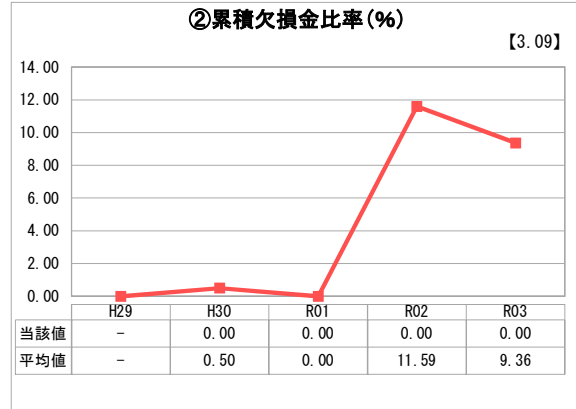
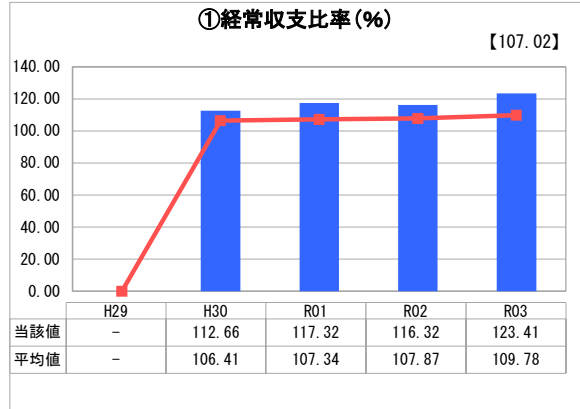
兵庫県 芦屋市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Bb1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	71.83	100.00	60.68	1,485

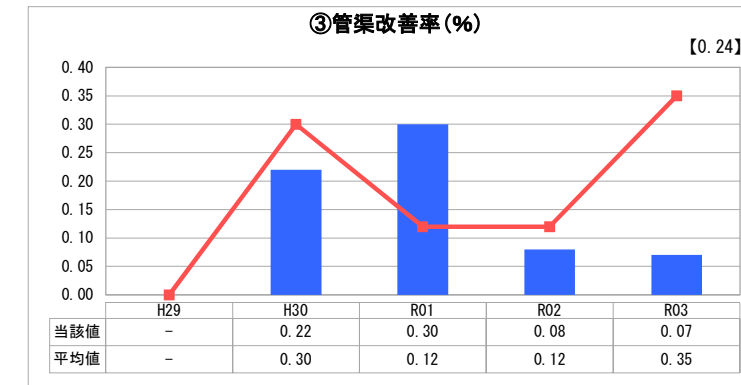
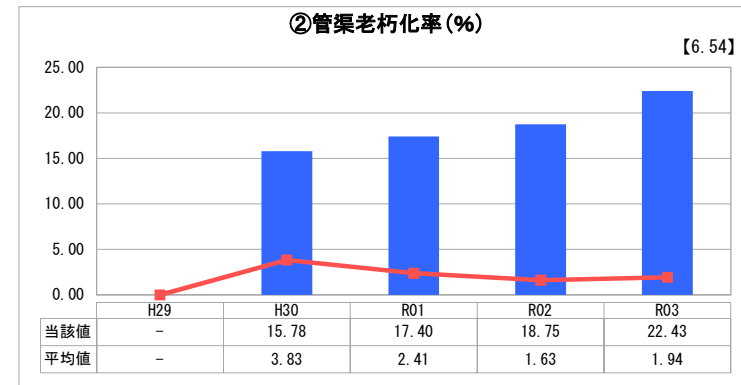
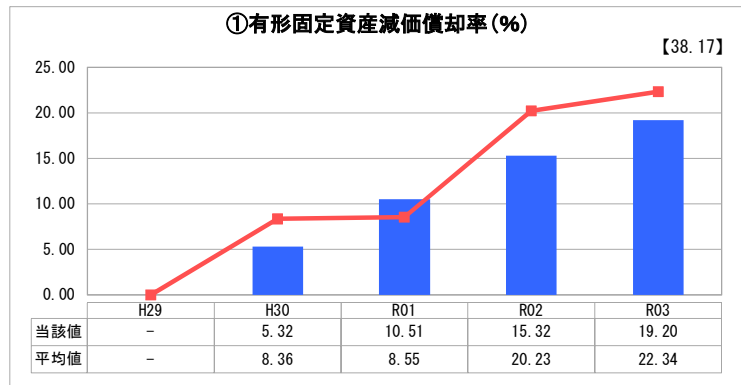
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
95,430	18.47	5,166.76
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
95,149	11.24	8,465.21

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、平成30年度以降黒字であることを示す100%以上を維持しており、⑤経費回収率も、使用料で回収すべき費用を全て賄えているとされる100%を上回っていることから、経営状況は良好であると言える。③流動比率も100%を超えており、1年以内に支払うべき負債に対する現金等が確保されていることが示されている。

④企業債残高対事業規模比率は、徐々に減少傾向にあり、類似団体平均値よりも少なくなっていることから良好であると言える。

⑥汚水処理原価は、類似団体平均値より安価であり、また年々減少傾向にあることから、効率的な汚水処理が実施できていると言える。⑦施設利用率も、全国平均よりも高い数値となっていることから概ね効率良く利用できていると言える。

⑧水洗化率は、地方公営企業法の財務適用前から既に100%を達成している。

なお、平成30年度から地方公営企業法の財務適用を行ったので、経営比較分析表上では平成29年度以前の比較は表示されていない。

2. 老朽化の状況について

償却対象資産の減価償却の状況を示す①有形固定資産減価償却率は増加傾向にあり、②管渠老朽化率も類似団体平均値より非常に高くなっているため、老朽化は進んでいると言える。また、下水処理場の機械設備等も老朽化しているため、下水道施設全体において効率的な施設整備を行う必要がある。

全体総括

芦屋市下水道事業は、早くから下水道整備を行っていたため管渠や施設の老朽化が進んでいることが課題として挙げられる。

上記『1. 経営の健全性・効率性』では、良好な経営状況であることが示されているが、『2. 老朽化の状況』より、更新が必要な資産が増えていることや、人口減少等に伴い使用料収入が減少する見込みであることなどから、今後は経営状況が厳しくなることが予想される。

経営戦略及びストックマネジメント計画を活用して、延命化を図りながら施設整備を行い、将来にわたり安定した経営に努めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。